



主体的に取り組む、それを楽しむこと

補習授業校事務所は、アクトン校舎の中、つまり日本人学校の中にあります。今、日本人学校の子どもたちは10月1日の文化祭に向けて劇や歌を練習しており、その声が聞こえてきます。

私も長年、文化祭や学習発表会に関わってきました。今でも忘れられないシーンもたくさんあります。

文化祭での劇に定評のある中学校に勤務し、中2担任をしていた年のことです。生徒たちは毎年素晴らしい劇を見ているので、自分たちもいいものをつくるぞという気持ちは既に芽生えていました。夏休み中に脚本係がシナリオ原案を作り、学級会で検討し、監督や配役、音響、小道具……と係を決めて練習に入ります。私は、脚本係、監督とは打ち合わせをし、それ以外はほとんど口を出しませんでした。舞台練習に入った頃、2、3アドバイスをし、いくつかの相談に乗った程度です。タイトルはもう忘れてしまいましたが、劇の内容は、お屋敷に住む少年とエントツそうじに来た少年との間に友情が芽生えるというものでした。イメージ曲は、当時流行っていたMr.Childrenの『Tomorrow never knows』。本番は盛大な拍手をもらって大成功。終了後、「うまくいったやん」「曲出しばっちりやったよ」「本気でたたくから痛かったわ」(屋敷の主人が息子のほおをたたくシーンがあった)等々みんなで健闘をたたえ合いました。いつもは控えめなMがりっぱに主役を果たしたこと、やんちゃなSが最後まで黙々と小道具作りに取り組んだこと、監督のTは全体を見て的確に指示を出していたこと、約4ヶ月の取組を通して彼らの持ち味や成長を見ることができました。この舞台で自信をつけて、中3時の進路選択の折にきちんと意思表示ができた子もいました。

少しぐらいはみだしたっていいさ oh oh 夢を描こう
誰かの為に生きてみたって oh oh Tomorrow never knows
心のまま僕はゆくのか 誰も知ることのない明日へ
(歌詞の一部)

自分たちで試行錯誤しながら一つひとつ積み上げて形にしていくことは大変な作業です。が、やり遂げた後の満足感には格別なものがあります。そして、自分の意志で取り組んだことは何年経っても忘れません。時には自分自身を勇気づけてもくれます。

子どもたちには、主体的に取り組む、それを楽しめる場の提供をしていきたいものです。そして、大人は彼らの自主性を尊重しながら見守っていきましょう。国語学習でも“やらされている”ではなく“学びを楽しむ”姿勢で主体的に取り組んでもらえたら、もっともっと力になるはずです。

今日は第19回授業日です。1年間の折り返し地点にきました。後半の学習にどのように取り組んでいくべきか考えてみたいものです。

学級委員の会イベント実行委員からのお知らせ

2学期古本セール 10月1日

9:50～11:45

於：ジュニアホール

★児童生徒は休み時間に参加・購入をします。

所持金限度額：小1～小4 £3

小5～中学 £5

★保護者：IDカードの着用を

★フリマを同時開催予定

出店希望の受付を9月10日から開始します。区画が埋まり次第締め切ります。ご希望の方は、クラス、名前、携帯番号、出店内容を book.hoshukou.cr@gmail.com までお知らせください。なお、こちらから、確認の返信があるまで確定ではありませんのでご了承ください。

2学期の教育相談

10月22日

ご希望の方は申込書(職員室にあります)またはメール(事務所宛)にてご連絡ください。

連絡

12月3日は Zoom 授業です

現地校行事のため、
校舎が使用できません。